

みんなの健康ラジオ

『子宮筋腫の治療方法』

(2018年2月15日放送)

横浜市産婦人科医会

(医)皓慈会浅川産婦人科医院

浅川 恭行

症状が軽くても手術をする必要があるか

筋腫の状態

- 大きさはどれぐらいか
- 数はいくつか
- どこにできているか(位置)

発育速度

- 発育の速度は速いか、遅いか
- 観察するたびに大きくなっているか

手術

本人の状況

- 妊娠を希望するか、しないか
- 子宮を残すか、残さないか
- 閉経が近いか、まだ先か

治療選択肢

- どんな治療を受けたいか
- その治療法はどのくらいの大
きさ、数まで手術が可能か

子宮筋腫を薬で治すことはできるか

- 子宮筋腫を治す薬はないが、小さくすることは可能
 - GnRHアゴニスト：点鼻、皮下注射：偽閉経療法
- GnRHアゴニストを使用するメリット
 - 手術前に使用
 - 筋腫の大きさを小さくして、手術をやりやすくする。
 - 筋腫が小さくなることで可能になる手術方法がある。
 - 投与すると子宮への血流が減少し、手術中の出血が減少する。
 - 強度の貧血がある場合、薬で月経を止めて、貧血を改善してから手術を行う。
 - 閉経が近い場合に使用
 - 薬を投与している間に閉経にもっていければ、手術の必要がなくなる。
- 副作用として更年期のような症状が出る

経過観察が可能な筋腫は？

経過観察になるケース

- 筋腫が小さい
 - 一般に大きさが5～7cm以上（成人男性の握りこぶし大以上）の筋腫が手術の対象とされる。ただし、小さくても過多月経になりやすい粘膜下筋腫は例外。
- 症状が重くない
 - 筋腫が小さく、日常生活に支障が出るほどの症状がない。
- 閉経が近く、大きくなる可能性が低い
 - 閉経年齢（平均で50歳前後）が近くて、重い症状がなく、筋腫が大きく増大しそうにない場合。

子宮筋腫の治療法の選び方

- 子宮筋腫とわかったら、どのように治療法を選択すればよいか
- 子宮筋腫の手術にはどのような方法があるのか
- 筋腫核出術とはどんな手術か
- 妊娠を望まないときの治療にはどのようなものがあるか

子宮筋腫とわかったら、 どのように治療法を選択すればよいか

子宮筋腫が見つかる

要治療
手術が必要

経過観察

子宮を残したい

子宮を取ってもよい

妊娠を
希望する

妊娠を
希望しない

核出術

その他の治療

全摘術

子宮筋腫の治療法

- 子宮全摘術
 - 開腹手術
 - 腔式手術
 - 腹腔鏡手術
- 子宮筋腫核出術
 - 開腹手術
 - 腹腔鏡手術
 - 子宮鏡手術
- 子宮動脈塞栓術(UAE)
- 集束超音波手術(FUS)
- マイクロ波子宮内膜焼灼術(MEA)

子宮筋腫の手術にはどのような方法があるのか

	手術方法	メリット	デメリット
おなかを切る	開腹術 全摘術 核出術	<ul style="list-style-type: none"> ●手術時間が短い ●おなかの中の状態を直接見ることができるので、確実に安全な手術ができる ●大きい筋腫や数の多いもの、筋腫以外の異常に、スムーズに対応できる ●ほとんどの医療機関で受けられる 	<ul style="list-style-type: none"> ●体への影響が大きく、術後に痛みがある ●術後の癒着が多い ●入院期間が長く、社会復帰に時間がかかる ●おなかに傷あとが残る
おなかに穴をあける	腹腔鏡手術 全摘術 核出術	<ul style="list-style-type: none"> ●傷が小さくてすむ ●術後の癒着が少ない ●術後の痛みが軽い ●入院期間が短く、社会復帰も早い 	<ul style="list-style-type: none"> ●開腹手術に移行する場合がある ●すべての筋腫に応用できない ●手術に熟練を要する ●特別な設備を必要とするため、医療機関が限られる
おなかを切らない	子宮鏡手術 核出術	<ul style="list-style-type: none"> ●腔からの手術のため、おなかに傷ができない ●術後の痛みが軽く、回復が早い ●入院期間が短く、社会復帰も早い 	<ul style="list-style-type: none"> ●適応となる筋腫に限られる ●まれに、腹腔鏡手術や開腹手術に移行する場合がある ●筋腫が大きい場合、数回に分けて手術する場合がある
	腔式手術 全摘術	<ul style="list-style-type: none"> ●腔からの手術のため、おなかに傷ができない ●術後の痛みが軽い ●入院期間が短く、社会復帰も早い 	<ul style="list-style-type: none"> ●手術の時に見える範囲が狭く、筋腫以外の異常に対応できない ●開腹手術に移行する場合がある ●分娩経験や筋腫の大きさに制限がある

筋腫核出術とはどのような手術か

- 筋腫のみを取って子宮を残す手術：開腹、腹腔鏡、子宮鏡
- 核出術の最大の問題点は再発がありうること
- 核出術が困難なケース
 - 子宮頸部筋腫が巨大化している。
 - 筋腫が極端に多数ある。
 - 開腹手術による核出術の既往があり、癒着により手術中の出血が大量になり危険が予想される。

手術法	メリット	デメリット
全摘術	<ul style="list-style-type: none">● 再発の心配がない● 筋腫の症状がなくなる● 子宮がんの心配がなくなる	<ul style="list-style-type: none">● 妊娠・出産ができなくなる● 子宮がなくなったという喪失感がある
核出術	<ul style="list-style-type: none">● 筋腫の症状がなくなる● 妊娠・出産の可能性はある	<ul style="list-style-type: none">● 手術中の出血量が多くなる傾向がある● 再発の可能性はある

どんな病院を選べばよいか・・・

- どんな治療を受けたいかをはっきりさせて選ぶ
- 医師選び・・・
 - 疑問に思うことやよくわからないことについて、丁寧にアドバイスをしてくれる。
 - 子宮筋腫の現在の状態、これから予想されることについて、十分な説明をしてくれる。
 - すべての治療につきもののデメリットについて、具体的に説明してくれる。
 - 症状や希望をよく聞いてくれる。
 - 1つの治療だけを押しつけない。
 - 超音波検査やMRI検査の画像についてわかりやすく説明してくれる。
 - 一般論でなく、自分の施設での治療成績や限界を具体的に説明してくれる。